

会津コシ 特A 復活!! 両沼地方稲作情報

発行：JA 会津みどり営農部・各総合支店

第1号 平成25年4月23日

福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2112）

//

金山普及所（電話0241-54-2801）

～良質米生産は良質な苗作りから～

1 今後の気象状況について

（4月20日～5月19日の1ヶ月予報）

向こう1か月の平均気温は、東北地方で平年並または低い確率ともに40%です。

（平成25年4月19日 仙台区気象台発表資料より抜粋）

2 健康な苗作り

そもそも、「良い苗」とは・・・

- ① 病気にかかっていないこと → 種子消毒、塩水選、薬剤施用を適切に
- ② 揃いが良いこと → 十分な浸種と催芽・出芽管理
- ③ 苗質が良いこと → 適正な温度管理

（1）出芽 ～30℃以上の高温にしないこと～

- ① 育苗器を利用する場合は温度を28℃に設定し、芽が伸びすぎないように注意しつつ2昼夜行う。30℃以上の高温には絶対にしない。
- ② 被覆資材を利用した無加温出芽では、28℃の温度管理をさらに注意深く行う。

（2）緑化 ～高温管理は徒長のもと～

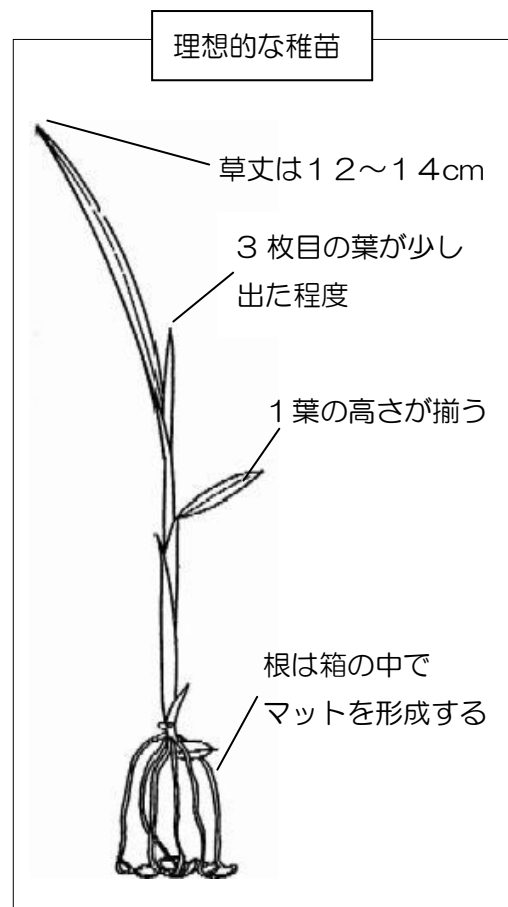
- ① 出芽後は、急激に強い光にあてない。
- ② 昼間25℃夜間12～15℃を目安とする。
- ③ 苗丈が1.5～2cmになったら平張りをはずす。

（3）硬化 ～過保護にしない～

- ① 昼20～25℃、夜間10～15℃を目安にする。
- ② かん水は朝のうちにする（まめなかん水は徒長のもと）

（4）移植 ～苗の様子と相談しながら～

早植えは早期出穂・高温登熟による品質低下の原因となります。本来の適期は5月20日頃です。



3 育苗期に注意すべき病害

発生の様子（症状）	病名	防除法、対処法
緑化～硬化期頃に莖葉がヒョロヒョロと長く伸びる。また、葉の色もふつうより黄色い。	ばか苗病	種子伝染病のため基本的には優良種子への更新、塩水選、種子消毒で対応する。 発生してしまったときは、罹病苗を抜き取る。
出芽～緑化時に箱全体が白カビで覆われる。	リゾープス属菌による立枯病	出芽期 32℃以上の高温、緑化期以降 10℃以下の低温、過湿を避ける。 ダコニール 1000 による薬剤防除（下記参照）。
根、苗の地際部が褐変・腐敗する。籾層に白～ピンクのカビが生える。地上部は黄化し、やがて枯死する。	フザリウム属菌による立枯病	昼間 28℃以上、夜間で 10℃以下にならないようにする。 タチガレエース液剤による薬剤防除（下記参照）。
フザリウム属菌による病徴に似ているが、地際部にカビが見えない。苗が円形またはドーナツ状に枯れる。	ピシウム属菌による立枯病	フザリウム属菌とほぼ同じだが、特に 10℃以下の低温を避ける。 タチガレエース液剤による薬剤防除（下記参照）。
急にしおれ、根の活力が弱り、葉がコヨリ状に巻いて枯死する。	ピシウム属菌による立枯病（ムレ苗）	5℃以下の低温にあてない。霜注意報が発令された場合、早めにハウスの裾を閉め、保温に努める。 タチガレエース液剤による薬剤防除（下記参照）。
芽は褐色になり、腐敗・枯死する。葉齢が進んだ状態で感染すると、新葉は腐敗し、引っ張ると抜けるようになる。	もみ枯細菌病	種子伝染病のため、健全籾の使用、種子消毒による防除が基本である。 催芽・出芽は 28℃以下に管理し、ハウス内は 30℃以上の高温にならないようにする。 発病がみられた箱は、発病していないように見える部分も含めてすべて廃棄し、移植しない。

4 薬剤防除（参考）

農薬名	適用病害虫名 使用目的	使用時期	使用方法	使用回数
ダコニール 1000	苗立枯病 （リゾープス菌）	は種時から緑化期 （但し、は種 14 日後まで）	育苗箱 1 箱あたり 500～1000 倍 液 0.5L または、1000～2000 倍 液 1L を土壌かんとする。	2 回
タチガレエース 液剤	苗立枯病 （フザリウム菌） （ピシウム菌） ムレ苗防止 根の生育促進 移植時の発根及び 活着促進	は種時または 発芽後	育苗箱 1 箱あたり 500～1000 倍 液 0.5L を土壌かんとする。	1 回
		は種時	育苗箱 1 箱あたり 1000 倍液 1L を土壌かんとする。	

御不明な点がございましたら、**最寄りの JA 総合支店**までお問い合わせください。